

全空連 第289号  
平成25年1月23日

各都道府県空手道連盟理事長 殿  
各競技団体空手道連盟理事長・部長 殿  
各会派団体空手道連盟理事(委員)長 殿

公益財団法人 全日本空手道連盟  
会 長 笹 川 堯



### 指導者の責任ある行動と自覚について（通知）

時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

ご承知のように2020年オリンピックおよびパラリンピック競技大会の候補都市として東京都がIOCに承認されました。今年9月7日ブエノスアイレスで開催されるIOC総会で最終決定がなされます。空手道は、これまで2012 ロンドン五輪、2016 リオデジャネイロ五輪でも正式種目の候補にあがりながら、最終選考で落選するという経緯がありました。去る1月15日世界空手連盟（WKF）アントニオ・エスピノス会長が急遽来日しました。16日には全空連会長笹川とともに下村博文文部科学大臣を表敬訪問し、空手道の正式種目採用の協力要請をしました。翌17日には、空手道会館においてNHKをはじめ多くの報道関係者を招いて2020年オリンピック空手道の正式採用に向けた記者会見を行いました。

この様な状況の中、大阪市の公立高校運動部顧問による体罰が原因となって、将来のある高校生が自殺に追い込まれるという悲しむべき事案が明らかになりました。また東京の大学空手道部で部の指導方針を巡ってOBと主将がトラブルとなり、OBが亡くなるという誠に残念な事案が発生いたしました。

指導者は、単に空手道の技術のみを教えるのではなく、命の大切さ、運動の喜びを教え、人と人の絆を培い、礼にかなった行動や社会的規範を教えることこそ使命であります。したがって指導者は、技術指導者であるとともに人格者でなければなりません。教わるものたちの意欲を損なわせる言動の中にセクシャルハラスメント、パワーハラスメント、モラルハラスメント等があります。指導者は、自身に寄せられているその信頼を裏切ってはいけないのです。子ども（選手）を伸ばし、育てるべき指導者がその成長の芽を摘むようなことがあってはなりません。

つきましては、各団体におかれては、指導者に対し、道場、部活動、試合会場、日常生活の場などあらゆる場面において、身体的・精神的暴力行為を禁止するとともに、空手道に携わるものとしての“責任ある行動と自覚を持つ”という指導を徹底されるようお願いいたします。